

令和5年度

シ ラ バ ス

学 習 案 内



第 1 学 年



この冊子「学習案内（シラバス）」では、自分が学んでいることの全体像を知ることができます。今年度は各教科の学習の基礎基本、マイ勉の心得・方法、年間行事予定表等も入っていますので、いつも手元に置いて学習の手引きとして利用もでき、また自主的に学習を進めることもできます。一人一人の生徒への教師の願いや期待も読み取って、この一年間の学習に励みましょう。

「シラバス」とは： 辞書によると syllabus の語源は、ギリシャ語の「羊皮紙、文書の内容、目次」を表す sillybos から来たもので、「講義などの摘要、概要、要旨、教授細目・・・」などと訳されています。学校では一般的には「授業の目的、内容、スケジュール、学習要件などを提示したもの」という意味に使われています。
本校では「年間学習案内」という意味を持つ言葉として「シラバス」を使います。

熊谷市立別府中学校

電 話： 048-532-6004

FAX： 048-533-2308

URL <http://www.kumagaya-beppu-j.ed.jp/>

メールアドレス：j-bepp21@kumagaya-beppu-j.ed.jp

別府中の基礎基本



みなさんの中に、こんなことで不安になっている人はいませんか。
「中学生になったら何を勉強したらいいんだろう？」
「今度〇年生に進級するけれど、どんな内容の勉強が新しく入ってくるんだろう？」

別府中では、みなさんに「絶対にこの力をつけてほしい」という各教科の基礎的・基本的な知識・技能を精選し、「別府中の基礎基本」を作りました。

みなさんも、授業の中で学んだあとの復習として、または予習として家庭学習で取り組んでみましょう。

	基礎・基本の内容	身につけ方・評価の方法
国 語 科	1 (古文) 古文の冒頭部分をすらすら暗唱できる。 第1学年「竹取物語」冒頭 第2学年「平家物語」冒頭 「枕草子」冒頭 第3学年「おくのほそ道」冒頭 2 (文法) 言葉の単位「文節と単語」を理解し、「文の成分」「品詞」をそれぞれ見分けることができる。 3 (書くこと) 第1学年「説明文」・図表などを用いた説明や記録の文章を書くことができる。 第2学年「意見文」・自分の立場を明確にして、意見文を書くことができる。 第3学年「批評文」・関心のある事柄について批評する文章を書くことができる。 4 (漢字) 校内漢字検定 十級 (小学校一年程度) → 準二級 (中学校三年程度)	○身につける方法 ・暗唱は正確に書けるまで練習するとよい。 ・教科書を何回も読む。 ・ワークを繰り返し家庭学習する。 ☆評価の方法 ・中間・期末テスト ・单元ノート、ワーク提出 ・スピーチ ☆年間6回校内漢字検定があります。 1年生 8級 2年生 6級 3年生 4級の合格を目指します。
数 学 科	○本校の数学科では、以下の4つのそれぞれの領域において、次に挙げる基礎的・基本的な内容の習得を目指す。 数と式 【1年】 ・正・負の数の計算ができる。 ・文字を含んだ式の計算と一次方程式を解くことができる。 ・素数を積で表すことができる。 【2年】 ・式の値を求めることができる。 ・文字式を使って説明できる。 ・特定の文字について解くことができる。 ・連立方程式を解くことができる。 【3年】 ・根号を含む式の計算ができる。 ・式の展開ができる。 ・因数分解ができる。 ・二次方程式を解くことができる。 【共通】 ・方程式を立てて問題を解くことができる。 図形 【1年】 ・おうぎ形の弧の長さと、面積を求めることができる。 ・立体の体積と、表面積を求めることができる。 ・基本の作図ができる。 【2年】 ・図形の性質を利用して角の大きさを求めることができる。 ・図形の証明問題を解くことができる。	○身につける方法 ・授業中のノートへの書き込みの充実。 ・毎回の授業の復習をする。(教科書、ノート、ワーク、小テスト等) ・教科書、ワークの問題の繰り返し学習をする。(リトライワークの活用) ワークのA問題を確実に習得する。 ☆評価の方法 ・ノート、ワーク、自己評価カード、授業態度、宿題の提出状況、忘れ物の有無、定期テスト、单元テスト、その他のテストの状況等を総合的に評価する。 ☆年6回、校内数学検定を実施します。 1年生 6級 2年生 4級 3年生 2級以上の合格を目標とします。

	基礎・基本の内容	身につけ方・評価の方法
数 学 科	【3年】 ・円周角の大きさを求めることができる。 ・平行線と線分の比を利用して線分の長さを求めることができる ・直角三角形の辺の長さを求めることができる。 関数 【共通】 ・どのような関数関係になっているかわかる。 ・変化の割合を求めることができる。 ・座標を正しく読むことができる。 ・関数のグラフを読んだりかいたりすることができる。 ・関数の変域を求めることができる。 ・グラフの交点の座標を求めることができる。 データの活用 【1年】 ・代表値を求めることができる。 【2年】 ・様々事象の確率を求めることができる。 ・箱ひげ図を読み取ったり表したりすることができる。 【3年】 ・標本を調べて母集団の性質を求めることができる。	
社 会 科	【歴史】 ・日本の歴史の時代区分ができる。 ・歴史上の主要な人物とその業績がわかる。 ・主な出来事の原因とその結果から、歴史の大きな流れを説明できる。 ・各時代の文化の特徴がわかる。 【地理】 ・地球儀や地図の見方、使い方がわかる。 ・8地方区分と都道府県名とその位置がわかる。 ・世界の主要な国々の名前と位置がわかる。 【公民】 ・日本国憲法の主要な条文が正確に読める。 ・三権の抑制と均衡のしくみについて説明できる。 ・財政のはたらきを説明できる。 ・現代の国際的な問題を説明できる。	○身につける方法 ・教科書の重要語句（太文字）ノートを作る。 ・授業ノート・プリントをまとめ直す。 ・歴史的事象が起こった場所、資源の分布など白地図でまとめる。 ・地図や年表をよく見えるところに貼り、こまめに確認する。 ☆評価の方法 ・小テスト、定期テスト ・発言の積極性 ・レポートなどの提出物
理 科	【1年】 『いろいろな生物とその共通点』 ・生物の体の共通点と相違点を見だし、生物を分類できる。 ・ルーペや顕微鏡を正しく使うことができる。 『身のまわりの物質』 ・物質の状態変化の規則性について説明することができる。 ・気体の性質をまとめ、説明することができる。 ・ガスバーナーを正しく使うことができる。 『身のまわりの現象』 ・光の性質について説明することができる。 ・凸レンズを通る光の道筋を作図することができる。 ・音の正体や伝わり方などの性質を説明することができる。	○身につける方法 ・授業で配られる「ワーク」などを繰り返し活用する。 ・ノートや教科書を活用して、重要語句を身につける。 ☆評価の方法 ・定期テスト ・授業に取り組む姿勢 ・レポート

『地球と私たちの未来のために』

・地球の自然環境や科学技術を知り、未来の社会のために、私たちは社会にどのようにかかわればよいか考えることができる。

	基礎・基本の内容	身につけ方・評価の方法
英 語 科	1年生 (1) 自分の名前をローマ字で書くことができる。 (2) 基本的な用語を用いて自己紹介ができる。 (3) 複数の物を適する形で表現できる。 (4) 家族や友人などを基本的な用語を用いて紹介することができる。 (5) 過去にあったことや行ったことを一般動詞を用いて表現できる。 (6) 自分や家族、友人ができることを表現できる。 2年生 (1) 不規則な変化をする一般動詞を使い、肯定文、否定文、疑問文の使い分けとその応答できる。 (2) 過去の状態や気持ちを be 動詞の過去形を使って表現できる。 (3) 予定や未来のことを表現できる。 (4) 自分のやりたいことやなりたい職業を表現できる。 (5) 行動の目的を表現できる。 (6) 複数の物を比較した表現を使い分けすることができる。 (7) 「～される」や「～された」のような行為を受ける側の立場を表現できる。 3年生 (1) 自分や家族、友人等が経験したことを表現できる。 (2) 自分や家族、友人等が継続して行っていることを表現できる。 (3) 自分や家族、友人等が既に完了した行為を表現できる。 (4) 関係代名詞の使われた英文が理解できる。	○身につける方法 ・単語を覚えるまで書く。 ・教科書を暗唱できるくらい声を出して読む。 ・教科書の基本文を理解して自分でも書く。 ・ノートに自己表現として単元で習ったことをオリジナルの英文で書く。 ☆評価の方法 ・中間、期末テスト ・単語テスト ・パフォーマンステスト ・スピーキングテスト ・ノート、ワークの提出
音 楽 科	【第1学年】 ◎課題曲の中から1曲選曲し、みんなの前で独唱できる。 ・課題曲 「主人は冷たい土の中に」 「エーデルワイス」 「校歌」「パフ」 ◎アルトリコーダーの基本の運指（低ファ～高ド）をマスターし課題曲を演奏できる。 ・課題曲 「喜びの歌」 「かっこう（A 1）（A 2）」 「オーラ リー」 「アニー ローリー」 「ラヴァース コンチェルト（A 1）」 【第2学年】 ◎「夢の世界を」の自分のパートをマスターし、混声三部合唱でできる。 ◎ギターの基本のコード（C G 7 F E m A m）をマスター	○身につける方法 【歌唱】 評価項目 ・姿勢 ・口形 ・発声 ・ハーモニー ・パート練習にしっかりと取り組む。 ・全体練習の中で恥ずかしがらずに大きな声で歌う。 【器楽】 評価項目

	し、課題曲を演奏できる。	・ARの運指 ・ギターのコード ・実技テスト
	・課題曲 「カントリー ロード」 「Hey Jude」	・くり返し練習する。

	基礎・基本の内容	身につけ方・評価の方法
音楽科	【第3学年】 ◎「花」をみんなの前で独唱できる。 ◎琴の基本奏法をマスターし、課題曲を演奏できる。 ・課題曲 「さくら さくら」	☆評価方法 ・相互評価 ・パート評価 ・琴の奏法 ・実技テスト
技術科	1 技術分野1年 (1) 生活に必要な基礎的知識や技術を身につけ、CDラックができるようにする。 ・さしがねを正しく使い、材料へのけがきを正確にできるようにする。 ・のこぎりを正しく使い、正確なのこぎりびきができるようにする。 ・げんのうを正しく使い、正確な釘打ちができるようにする。 (2) コンピュータの基本操作を身につける。 ・ワード・パワーポイントを使い、アルバム作成ができるようにする。 2 技術分野2年 (1) 作物を栽培して生活に生かせるようにする。 ・地域の環境に目を向けた栽培ができるようにする。 ・作物の栽培ができるようにする。 (2) エネルギー変換のしくみを理解し、簡単な電気機器を製作できるようにする。 ・はんだごてとはんだを使って、安全なはんだづけができる。 ・電気部品を正確にはんだづけができる。 3 技術分野3年 (1) 身の回りにあるコンピュータが使われている機器を調べ、制御について理解する。 ・コンピュータの構成を理解し、目的に合ったプログラムでロボットを制御できるようにする。 (2) 情報モラルのある快適な生活をくふうできるようにする。 ・これからの高度情報通信社会について理解する。	○大切なポイント ・材料の基準面とさしがねをしっかりと密着させる。 ・切断する材料によってひく角度を変える。 ・釘に正確に当てる。 ・各ソフトウェアの基本的な機能を使い慣れる。 ・栽培の手順に従って、継続した観察を行う。 ・練習用基板による実習を行う。 ・コンピュータの計測・制御の基本を良く理解し、実施のロボットを動かしてみる。 ・情報モラルについて現状を踏まえた学習を行う。
家庭科	自立を目指し、人や物と関わりながら学ぶ 1 食生活と自立 第1学年 健康的な食生活について理解し調理ができる 第2学年 伝統的な食文化を知り郷土料理を作ることができる 2 住生活と自立 第1学年 健康で安全な住まいについて考え、快適な生活を工夫できる 3 衣生活と自立 第2学年 日常着の活用、手入れの方法を理解する BOXティッシュカバーの製作を通して技能を磨く 4 家族・家庭と子どもの成長 第2学年 自分の成長（自分史）を知り、家庭や地域の関わりや幼児の生活について学ぶ	○身につける方法 ・実習・実験を通して、体験的に学習する。 ・家庭でのお手伝いを通して、実践力の向上に努める。 ・実生活と知識を結びつけて考え、自立する力を身に付ける ☆評価方法

科	第3学年 身近な材料でおもちゃを製作し、幼児とふれあい成長について考える 5 身近な消費生活と環境 第3学年 商品の選択、購入について理解を深め、消費者としての自立を促す	・期末テスト ・授業・実習・実験の取り組みの様子 ・プリント・ノート・作品の提出
	基礎・基本の内容	身につけ方・評価の方法
保健体育科	体育編 (体づくり運動) 自己の体力を知り、高める方法を理解し実践することができる。 (陸上) 短距離走では、正しいフォームで全力で走り抜けることができる。 長距離走では、自己の体力を最大限に発揮し、ペースを考え走りることができる。 (器械運動) 壁倒立が10秒以上でき、マット運動では倒立前転がスムーズにできる。 跳び箱では、台上前転ができる。 (水泳) クロール、平泳ぎで25m以上泳げる。 (球技)「バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、サッカー」 各種目のルールや競技方法を理解し、基本的な技能を応用してゲームや試合ができる。 (武道)「柔道」 礼儀作法やルールを理解し、基本技を身に付け、試合に応用することができる。 保健編 (1年) 心身の発達と心の健康・体の変化や異性とのかかわり方を理解する。 (2年) 健康と環境・環境の変化や、環境の汚染、保全について考え理解することができる。 傷害の防止・障害の原因と防止、応急手当や人工呼吸法、AEDの使用法が理解できる。 喫煙、飲酒、薬物の害について理解し、手を出さない心を育てる 性感染症やエイズについて理解することができる。 (3年) 健康な生活と病気の予防・生活習慣病を理解し予防方法を理解することができる。	・腕の振り、足の運び方 スタートダッシュ ・中間疾走の姿勢 ・フィニッシュまでをしっかり意識する。 ・走る姿勢、ペース配分 評価・タイムの伸び ・強く踏み切り、体をま るめてバランスを意識 して着地する。 ・腕のかき、足の使い、 呼吸のタイミングを意 識する。 評価・きれいなフォーム で長く泳げるか。 ・ボールに数多く触れる。 周囲をよく見る。ルー ルをしっかり理解する。 評価・個人技能がゲーム に生かされているか。 ・各礼法を覚える。 評価・礼法や基本技を応 用して試合等ができて いるか。 ・教科書・保健学習ノー トを活用し、各内容を しっかり理解する。 評価方法 ・定期テスト
美術科	【第1学年】 ○文字のデザイン「レタリング」 (1) 明朝体が描ける。 (2) ゴシック体が描ける ○スケッチ 見たり、想像したりしたことをスケッチできる。 ○彩色 (1) アクリル絵の具の使い方を身につけることができる。 (2) 混色の知識を深めることができる。 【第2学年】 ○「あかりのデザイン」 カッターなど安全に使用することができる。	○身につけ方 ・正方形の枠の中に定規 を使って書く。 ・横線、縦線の太さに注 意する。 ・誰に、何を伝えたいの か考える。 ・比較してを物を見るよ うに意識する。 ・正しい使い方を理解し、 けがをしないよう心が ける。

表現に合った素材を選択できる。

【第3学年】

○「わたしの「みち」」

- ・写真を見てカメラの高さ（視点の位置）を理解できる。
- ・自分の思いを、様々な描写方法を選択し表現できる。

☆評価の方法

- ・作品を完成させ必ず提出する。

別府中「授業の心得」

熊谷市立別府中学校

学力向上の第一歩は「授業を大切にすること」心

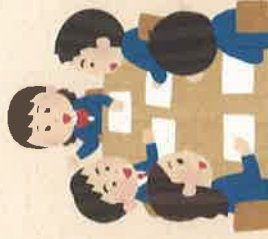
時間

- 次の授業の準備をしてから休み時間にしよう。
- チャイムと同時に授業開始。
- 授業の最後まで集中。



態度

- 忘れ物をしない。
- 挙手、話合いなど積極的に！
- 後片付けを忘れずにする。
(机・いすの整理整頓、ゴミはゴミ箱へ)



発言

- 始め、終わりのあいさつは大きな声でしっかりとしよう。
- 呼ばれたら、「はい」と返事をして立とう。
- はっきりと聞き取りやすい声で発表しよう。



別府中授業の約束とマナー

トシート確認

年 組 番 氏名

氏名
番

年 組

年 組

年 組

※自己評価は5段階で記入（5→8割以上できた、4→8割できた、3→半分できた、2→できないことの方が多かった、1→全くできなかった）

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	次の授業の準備をしてから休み時間にする。										
2	チャイムと同時に授業開始。										
3	授業の最後まで集中。										
4	忘れ物をしない。										
5	拳手・話し合いなど積極的に！										
6	後片付けを忘れずにする。(机・イスの整理整頓、ゴミはゴミ箱へ)										
7	始め、終わりのあいさつは大きな声でしっかりする。										
8	呼ばれたら「はい」と返事をして立つ。										
9	はっきりと聞き取りやすい声で発表する。										

マイ勉の心得

- 学習中は携帯、テレビ、パソコン、ゲームの電源は切っておく。
- マイ勉強期間では、クラス全員で100%を目指そう。

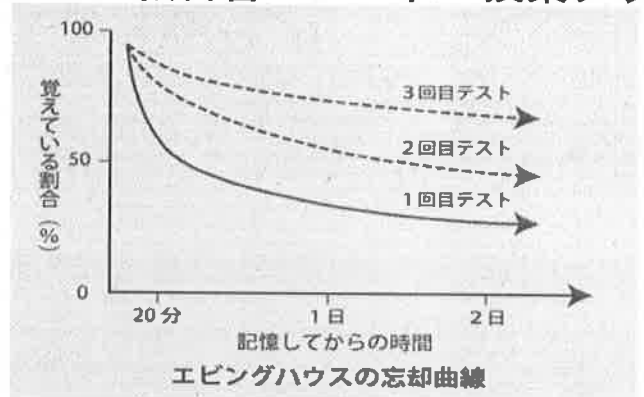
マイ勉のやり方

①授業の予習をする。

- ・あらかじめ自分で調べたり、考えたりしてから授業に臨めば課題意識が高まり、授業にも集中できます。
(例:英語→単語練習、国語→意味調べ)

②授業の復習をする。

- ・その日のうちに授業を思い出しながら、教科書・ノート・授業プリントを使って学習すると、習ったことを定着させるのに効果的です。



③ワークを有効活用する。

- ・ワークは、学習のポイントが整理されています。テスト前だけではなく、ワークを毎日こつこつ学習することが大事です。
- ・ワークの問題を1回目はノートにやる。2回目はワークに書きこむ。3回目は間違えたところを重点的にやる。等、繰り返し取り組もう。

④定期テストを目安に学習計画を立てる。

- ・テスト範囲とテストまでの日数を考えて、何日に何をするか計画しよう。
- ・計画どおりに学習が進められているかチェックをしよう。

⑤わからないことをそのままにしない。

- ・問題に取り組んでわからなくなったときは、教科書を読んでわかるところまで戻ってやり直そう。学校で先生や友達に質問しよう。

⑥時間の使い方を工夫しよう。

- ・得意教科は効率的に、不得意教科はじっくり時間をかけてやろう。
- ・決めた時間で問題に取り組むトレーニングをしよう。

教科	学 習 内 容 ・ 方 法
国語	○教科書を音読しよう。 ・ 文学的文章や説明的文章は、場面を決めて読もう。 ・ 詩、短歌、俳句、古典は、繰り返し読んで暗唱を目指そう。 ○読めない漢字やわからない語句は、辞書を使って調べよう。 ○漢字検定の勉強に計画的に取り組み、合格を目指そう。(全員が1年生8級、2年生6級、3年生4級の合格を目指します。) ○ワークやプリントを活用して、授業の予習・復習をしよう。
数学	○授業の復習が基本。その日に習った計算をできるようにしたり、学習内容を覚えたりして、確実に基礎・基本を身につける。 ○教科書・ワークを中心に問題をノートに解く。2回、3回と繰り返し行い一つ一つをしっかりと理解する。また、丸付けも必ず行う。 ○数学検定の勉強に計画的に取り組み、合格を目指そう。(全員が1年生9級、2年生7級、3年生5級の合格を目指します。)
社会	○教科書を読み、授業の流れ・内容を思い出しながら、授業のノートやプリントを別のノートにまとめ直す。(「写す」のではなく、頭の中を「整理」する) ○「頭の中の整理」が終わってから問題集を解き、できなかったところはもう一度教科書やノートに戻って復習し直す。 ○地理は地図、歴史は年表、公民は条文やしくみ図で重要事項をつかむ。
理科	○授業内容の復習をしっかりと行う。 ○教科書を読みなおして、ワークシート等を活用して振り返りながらノートにまとめる。このときに、頭の中を整理しながら、重要語句や大切な実験結果などをまとめる。 ○重要ポイントノートを作成して、ポイントをまとめる。 ○教科書や理科ノートの問題、ワークなどできるだけ多く問題を解く。 ○語句だけでなく、なぜそう考えたのかなどの自身の考えをまとめておく。
英語	○教科書の音読を繰り返しする。読めない単語があったら丸を付けておき、次回先生に確認する。どんな内容なのかも頭に思い浮かべる。 ○新しく出てきた単語を書けるようになるまで練習する。発音しながら書く。最後に自分で小テストをし、書けなかった単語は再度練習する。 ○教科書のセクションが終わったら、ワークの問題を自分でやる。答え合わせをして、できなかったところを確認する。

【国語科】1年シラバス

別府中学校

1 【担当者】 白石 砂絵子

2 国語科の目標

- (1) 目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身につけさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。
- (2) 目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身につけさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。
- (3) 目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身につけさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

3 具体的な目標

- (1) 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすることができる。
- (2) 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うことができる。
- (3) 表現の仕方を工夫して、詩歌を作ったり、物語の続きを書いたりできる。
- (4) 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くことができる。
- (5) 書いた文章を読み返し、文や文章を整えて説得力のある文章にすることができる。
- (6) 社会生活に必要な手紙を書くことができる。
- (7) 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について、感想を交流することができる。
- (8) 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について、自分の考えを述べることができる。
- (9) 新聞やインターネット、学校図書館等の施設を活用して得た情報を比較することができる。
- (10) 作品の特徴を生かして朗読などをし、古典の世界を楽しむことができる。
- (11) 小学6年までに学習した常用漢字の読み書き、1学年で学習した漢字を読むことができる。
- (12) 字形を整え楷書で文字を書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くなどできる。

4 【国語科の評価の観点と評価の方法】

観 点	具体的な評価の観点	評価の方法
○知識・技能	・伝統的な言語文化・言葉の働きや特徴 ・語句語彙・言葉のきまり・漢字・書写など	プリント・ワーク 小テスト・定期テスト
○思考・判断・表現	・話題設定や取材・話すこと ・聞くこと・話し合うこと	スピーチ・聞き取りテスト 授業時の発言等
	・課題設定や取材・構成・記述 ・推敲・交流（読み合う・手紙）	作文・小作文 小テスト・定期テスト
	・語句の意味の理解・文章の解釈 ・自分の考えの構成・読書と情報収集	テスト・授業時の学習課題への取り組み
	・学習課題に進んで取り組もうとする ・言語生活を豊かにしようとしている	授業の態度・宿題 プリント・ワーク
○主体的に学習に取り組む態度		

5 国語科の家庭学習のポイント

- ① まず、予習が大切です。次の時間に行う教材の漢字や語句の意味を調べます。
- ② 次に、ワークやノートのまとめ直しをして授業の復習をします。漢字も確実に覚えましょう。
- ③ 最後に、問題集の中の同じジャンルで異なる文章の問題を解いてみましょう。
- ④ ふだんから、活字に慣れることが必要です。新聞のコラム欄を読み感想を書きましょう。

6 【使用教材】

教科書 教育出版 『伝え合う言葉』

副教材 『漢字の反復練習』(浜島書店) 『よくわかる国語の学習1』(明治図書)

『国語便覧』(浜島書店) 『すらすら基本文法』(浜島書店)

『単元別漢字マスター』(学宝社)

単元・教材（1年生の学習内容：140時間）

	単元と学習の内容	学習のねらい（一部を示す）
前期	1 単元「表現／対話／思想」 オリエンテーション ・ふしぎ ・桜蝶 ・お気に入りの一品を紹介する ・言葉と社会 1 言葉とコミュニケーション ・文法の小窓 1 言葉の単位	・国語学習の約束を確認し関心をもつ。 ・「あたりまえ」を自分の視点でとらえ直す。 ・文学作品の構成や展開を描写をもとに理解する。 ・自分の考えを相手にわかりやすく説明する。 ・対面・非対面コミュニケーションについて特徴を理解し、コミュニケーション能力について考える。 ・言葉のさまざまなまとまりを理解する。
	2 単元「自然／環境／科学」 ・自分の脳を知っていますか ・資料から得た根拠をもとに意見文を書く ・楷書で書こう（硬筆） ・言葉の小窓 1 日本語の音声 ・漢字の広場 1 漢字の部首 ・内容を整理して説明する	・文章の構成を捉え、要約に生かす。 ・資料を比較して共通点と相違点を見つけ、考えの中心を明確にして段落構成を考える。 ・正しい字形に注意しながら、作品を仕上げる。 ・日本語の音の特徴を理解する。 ・漢字の部首について理解を深める。 ・相手の反応を見ながら話す内容を工夫して伝える。
	3 単元「人権／多様性／平和」 ・ベンチ ・全ては編集されている ・写真で「事実」を表現する ・漢字の広場 2 画数と漢字の字体 ・材料を整理して案内文を書く	・文章から情報を集める方法を身に付ける ・メディアリテラシーについて考える。 ・写真の特徴を理解し、多様な活用の仕方を考える。 ・画数と字体について理解を深める。 ・目的や意図を理解して案内文を書く。
	4 単元「自然／環境／科学」 ・持続可能な未来を創るために ・森には魔法使いがいる ・文法の小窓 2 文の成分 ・根拠を明確にして意見文を書く ・広告の情報を考える	・持続可能な社会の実現に向けて、課題を発見する。 ・問いとその答えを見つけていく展開を捉えて読む。 ・文の成分の役割について理解する。 ・具体例や体験を根拠にして意見文を書く。 ・広告を見るときの観点を知り、特徴を理解する。
後期	5 単元「伝統／文化／歴史」 ・昔話と古典 ・物語の始まり ・故事成語 ・蜘蛛の糸	・古典にはさまざまな作品があることを知る。 ・物語を調べ、そのおもしろさを理解する。 ・故事成語を調べ、由来や意味を理解する。 ・近代の小説や物語を読む。
	6 単元「身体／生命／家族」 ・河童と蛙 ・オツベルと象 ・随筆を書く ・言葉の小窓 2 日本語の文字 ・書きぞめを書こう	・場面と描写を結び付けて読む。 ・構成や展開、表現の効果について考えをもつ。 ・身近な経験をまとめて、叙述の仕方を考える。 ・日本語の文字の特徴を理解する。 ・大きさ、字形に気を付けて、配置良く書く。
	7 単元「近代化／国際社会／共生」 ・子どもの権利 ・言葉と社会 2 イメージを言葉にする ・調べた内容を書く ・漢字の広場 3 漢字の音と訓	・経験と関連付けて読み、自分の考えをまとめる。 ・浮かんだイメージを図や短い単語でメモする。 ・自分の考えと比較しながら話を聞き、内容を捉える。 ・漢字の音と訓について理解を深める。
	8 単元「伝統／文化／歴史」 ・言葉がつなぐ世界遺産 ・読み手を意識して報告文を整える ・文法の小窓 3 単語のいろいろ ・発言を結びつけて話し合う ・漢字の広場 4 熟語の構成	・問いと答え、事実と意見の関係を捉える。 ・読み手の立場に立って、文章を整える。 ・自立語と付属語など分類の基準を理解する。 ・話題を意識して、発言を結びつけて話し合う。 ・熟語の構成の基本的な型を知る。
	9 単元「自己／他者／物語」 ・四季の詩 ・少年の日の思い出 ・言葉の小窓 3 方言と共通語	・詩の題材を捉え、描かれたイメージを想像する。 ・語り手に注目して読み、考えを確かなものにする。 ・方言と共通語の特徴について知る。

社会科シラバス

1 授業担当者 上原涼也（2・3年生） 笹川亜樹（1・3年生）

2 中学校社会科の目標（平成 29 年告示中学校学習指導要領より）

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

3 社会科の観点の目標と評価の方法

観 点	観 点 の 目 標	評 価 の 方 法
○知識・技能	基本的な事項・事柄が知識として定着し、理解することとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。	定期テストや小テスト等
○思考力・判断力・表現力等	資料に基づいて多面的・多角的に考察し、判断するなど、社会的な見方、考え方の基礎を身に付けることができる。	評価資料の内容、定期テスト
○主体的に学習に取り組む態度	社会的事象に対して関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。	自己評価や授業態度、提出物

A＝3点 B＝2点 C＝1点 3つの観点別 評価の合計で 評定をつける	合計点	組み合わせの例	評定
	9点	AAA	5
	8点	AAB	4
	5～7点	AAC、ABB、ABC、ACC、BBB、BBC	3
	4点	BCC	2
	3点	CCC	1

4 社会の家庭学習のポイント

授業の流れを思い出しながら別のノートにまとめ直し、学習内容を整理する。その上で問題集に取り組み、できなかったところはもう一度教科書やノートに戻って復習をする。日頃から「整理」をこまめにしておき、テスト前に問題を解いて定着度を確認する。地理は地図、歴史は年表、公民は憲法の条文やしくみ図が重要。地図や年表、しくみ図などはよく目につくところに貼っておくと良い。

5 使用教材

1年 教科書・歴史資料・地理資料・地図帳・地理／歴史ワーク

2年 教科書・歴史資料・地理資料・地図帳・地理／歴史ワーク・地形図（地形図は後日配付）

3年 教科書・歴史資料・公民資料・歴史／公民ワーク

※2年生は、地理・歴史ともに資料集は1年生のものを引き続き使用します。

《1年生の学習内容：105時間》

※ ○：地理 ●：歴史

	学 習 の 内 容	学 習 の ね ら い
前 期	○世界のすがた ○日本の姿 ○世界の人々の生活と環境 ●歴史のとらえかた ●古代までの日本 ・文明のおこりと日本の成り立ち	・地球儀や世界地図を活用し、世界の地理への興味・関心を高める。 ・日本の国土の位置及び領域の特色と変化を世界的な視野から多面的、多角的に考察する。 ・人々の生活と環境とのかかわりや、様々な条件のもとで多様な生活を営んでいることを理解し、異なる文化を尊重する態度を身につける。 ・歴史上の人物や出来事などについて調べ、時代区分や時代の移り変わりに気付く。 ・国家が形成されていく過程のあらましを、東アジアとのかかわり、大和政権による統一を通してとらえる。
後 期	・古代国家の歩みと東アジア世界 ○世界の諸地域 ・アジア ・ヨーロッパ ・アフリカ ・北アメリカ ・南アメリカ ・オセアニア ●中世の日本 ・武士の台頭と鎌倉幕府 ・東アジア世界とのかかわりと社会の変動 ・ヨーロッパ人との出会いと天下統一	・大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、天皇、貴族の政治が展開されたことを理解する。 ・「経済の成長」に関する学習テーマを設定し地域的特色を理解する。 ・「国家間の統合による変化」に関する学習テーマを設定し地域的特色を理解する。 ・「モノカルチャー経済」に関する学習テーマを設定し地域的特色を理解する。 ・「アメリカ合衆国を中心とした産業の発展」に関する学習テーマを設定し地域的特色を理解する。 ・「開発の進展と環境問題」に関する学習テーマを設定し地域的特色を理解する。 ・「アジアとの結びつき」に関する学習テーマを設定し地域的特色を理解する。 ・平安時代に生まれた武士がしだいに力をつけ、鎌倉幕府が成立し、その武家政権の特色について理解する。 ・武家政権の展開を理解させ、東アジア世界とのかかわりが中世の日本に及ぼした影響を考える。 ・織田信長と豊臣秀吉による統一事業を理解させ、新しく生み出された近世社会の特色を考える。

【数学科】シラバス

1. 担当者	1 年	中澤 聡子	荒木 健	2 年	荒木 健
	3 年	中澤 聡子	荒木 健		

2. 数学科の目標

中学校数学科においては、数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、数学のよさを知り、数学と実社会との関連についての理解を深め、数学を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を評価・改善しようとするなど、数学的に考える資質・能力を育てる。

3. 数学の領域構成

数と式 (①正の数・負の数、文字の式、一次方程式 ②式の計算、連立方程式 ③式の計算、平方根、二次方程式)

図形 (①平面図形、空間図形 ②図形の調べ方、図形と合同 ③図形と相似、円の性質、三平方の定理)

数量関係 (①比例・反比例 ②一次関数 ③関数 $y = ax^2$)

データの活用 (①データの分布の傾向 ②データの分布の比較、確率 ③標本調査)

4. 評価の観点の目標と評価の方法

観 点	観 点 の 目 標	評価の方法
知識及び技能	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	・授業の様子 ・定期テスト・単元テストなどの結果
思考力、判断力、表現力等	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	・授業の様子 ・定期テスト・単元テストなどの結果
学びに向かう力、人間性	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。	・授業の様子(発表発言など) ・提出物 ・自己評価、相互評価の資料等

○評価：上記3観点をA、B、Cの3段階で表す。

評定：上記の観点別学習状況の評価をもとにして、5段階(1～5)で表す。

5. 家庭学習のポイント

- ・復習はその日のうちに。教科書、ワークを活用し、確実に身につけよう。
 - ・たくさんの問題に挑戦しよう。ワークや持参の問題集を繰り返し行くとよい。
 - ・得意な分野(例・計算や図形など)は、早く正確にできるように。
- 苦手な分野は、教科書やワークのまとめをよく読み、基礎基本を確実に身につけよう。

6. 数学科よりお願い

- ・基礎・基本の定着状況を自ら把握できるように、全校一斉の数学検定を行います。自分の目標を見つけ、合格めざして頑張りましょう。
- ・「なぜ?」「どうして?」という疑問を大切にする。さらに、「覚えることを少なく、覚えたことをいかに活用するか」を心掛け学習しましょう。
- ・道具や宿題など、忘れずに。
- ・単元ごとに冊子としてまとめ、提出してもらいます。ノートリフィルやプリントを無くさないようにしましょう。

7. 使用教材

- 教科書(「未来へひろがる 数学」啓林館)、ノート、ワーク
- 単元に応じて三角定規、コンパス、分度器、電卓
- 熊谷市学力向上テキスト

【1年生の学習内容】

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
前 期	1 正の数・負の数 ■ 正の数と負の数の意味 ■ 正の数と負の数の四則計算と意味と計算 ■ 数の集合と四則計算の可能性 ■ 素数の意味と積で表すこと	数の範囲を拡張して、計算の可能性をひろげ、数についての処理がいっそう手際よくできるようにする。
	2 文字の式 ■ 文字を用いることの意義 ■ 文字を用いた式における乗法・除法 ■ 簡単な一次式の加法・減法 ■ 文字を用いた式による表現や読み取り ■ 不等式	文字を使って、数量や数量の間の関係を一般的にしたり、計算法則を簡潔に表したりすることを通して、文字を用いることのよさや必要性に気づく。また、表された式を読んだり、式を計算したりすることを通して、文字の式を利用するための基礎的な処理の方法を身につける。
	3 方程式 ■ 方程式などの意味 ■ 等式の性質と方程式 ■ 簡単な一元一次方程式の解法と利用 ■ 比と比例式	文字を含む等式から、文字の値を求める方法を理解し、これを用いることによって、実際の問題が形式的、能率的に処理できることを知り、さらにその方法を活用できるようにする。
後 期	4 変化と対応 ■ 関数関係の意味 ■ 比例・反比例の意味 ■ 座標の意味 ■ 比例・反比例の特徴 ■ 比例・反比例の活用	具体的な事象の中にあるともなって変わる2つの数量に注目して、比例や反比例の関係を見だし、その変化や対応のようすを考察することを通して理解を深め、利用できるようにする。
	5 平面図形 ■ 図形の基礎 ■ 線対称・点対称 ■ 基本的な作図とその利用 ■ 図形の移動 ■ おうぎ形の弧の長さとの面積	いろいろな平面図形について、観察、操作、実験を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深め、基礎的な知識・技能を習得して、それらを活用する能力を伸ばす。
	6 空間図形 ■ 空間における直線や平面の位置関係 ■ 空間図形の構成や表現 ■ 基本的な柱体、錐体の表面積と体積 ■ 球の表面積と体積	観察、操作、実験を通して、空間図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに、空間図形の性質について論理的に考察する能力や、立体の計量についての能力を高める。
	7 データの活用 ■ ヒストグラムや代表値の必要性和意味 ■ ヒストグラムや代表値による資料の傾向の把握と表現 ■ 累積度数 ■ 相対度数と確率	集団事象について、目的に応じて資料を収集し、表やグラフに整理し、その資料の傾向を読み取る活用能力をのばすとともに、数の表現に関する理解を深める。